

学区の概要

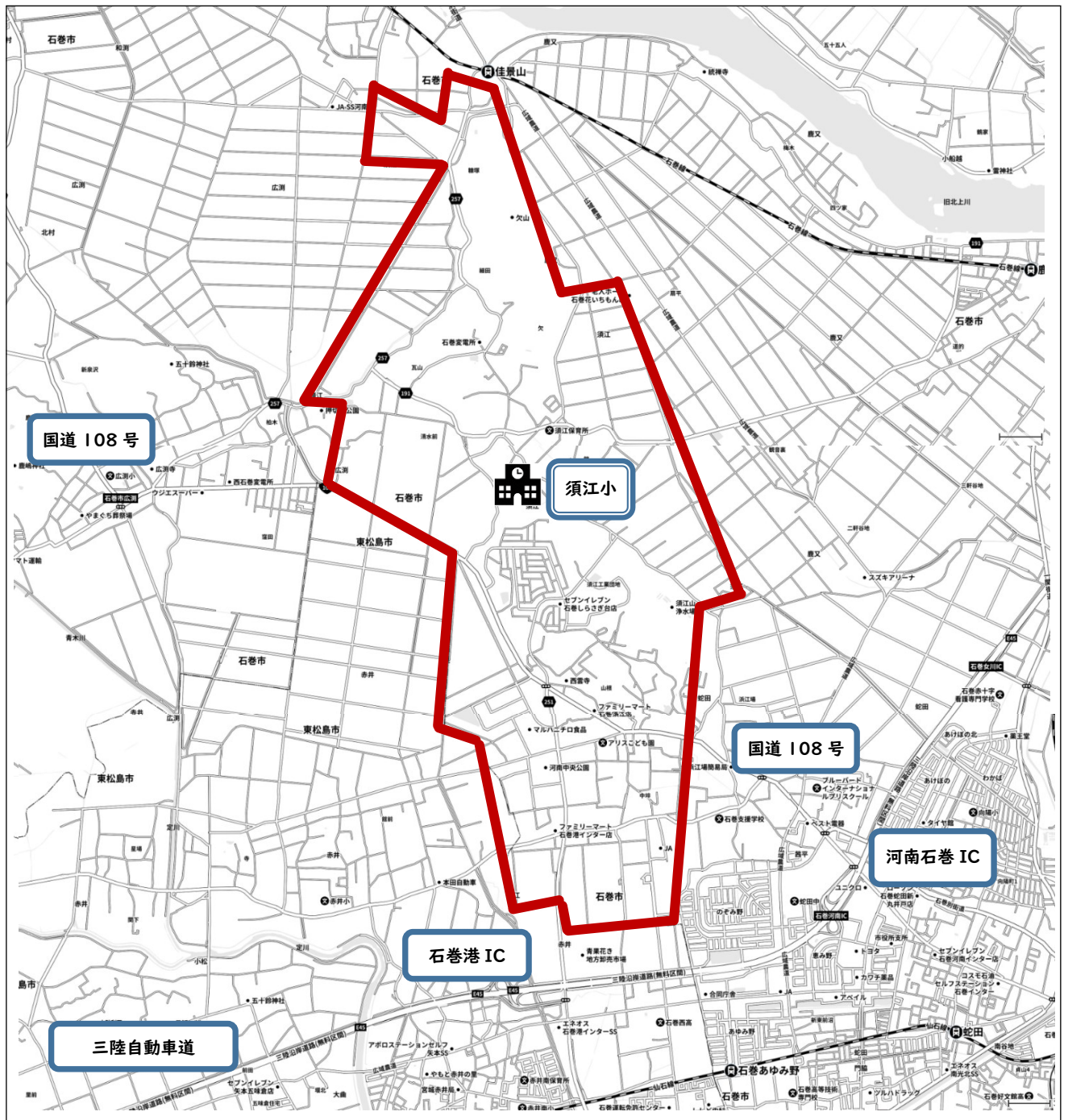
本学区は、面積7.5K㎡、石巻市の西部に位置し、地区内をJR石巻線、国道108号線が走り、東は石巻市中心部、南は東松島市と隣接している。学区の中央部を南北に丘陵地帯が走り、そこに、糠塚・細田・瓦山・沢田・小竹・欠・館・茄子川・山根・山崎・関ノ入・しらさぎ台・中塚の13の地区がある。

水田・畑作のほかハウス経営も盛んであるが、兼業化が進んでおり、丘陵部の関ノ入地区には、須江工業団地が整備されている。また、しらさぎ台地区では、平成7年11月から宅地分譲、住宅建築が始まり、児童数が増加した。

丘陵部とその周辺では、縄文や古墳時代の土器や石器などが発見されている。また、奈良、平安時代の縦穴住居や窯、粘土採掘孔などの遺跡が数多く確認され、そこで焼かれた瓦や須恵器が多く出土している。さらに、「金売り吉次」にまつわる地名伝説が残るなど、丘陵部を中心とした人々の営みは、かなり古い時代から続いている地域である。鎌倉時代から続いた葛西氏と長江氏の治世を経て天正年間の大崎氏と葛西氏の滅亡（深谷の役）及び一揆では、伊達政宗による討伐劇の舞台となり、細田地区や糠塚地区には、その史跡が数多く残っている。江戸時代に伊達氏の領地となってから、広渕沼築造や河川改修、新田開発が進められた。続く明治・大正・昭和の三代にかけて、広渕沼干拓など農地開発が盛んに行われ、現在の肥沃な耕土ができあがった。

地域住民については、旧須江地区では、3世代や4世代が同居している家庭が多く、両親が働きに出ており、児童の多くは祖父母の温かな庇護の下で養育されている。しらさぎ台地区では核家族が多く、放課後児童クラブを利用する児童も多い。保護者や地域住民の学校教育や社会教育に対する関心は高く、学校教育に協力的である。

以上のような地域性を反映し、児童は素直に育っている。平成25年度から平成27年度まで学力向上研究指定校（宮城県教育委員会）として3カ年の指定を受けた。また、長い歴史をもつ石巻支援学校との交流活動や中華人民共和国内モンゴル自治区エベンキ第1実験小学校との国際理解教育などの教育活動を積み重ねながら、学びへの意欲を持ち、やさしさとたくましさをあわせもった児童の育成を目指している。



車の場合：三陸自動車道 石巻港 IC から約 7 分
 同 石巻河南 IC から約 8 分
 同 石巻女川 IC から約 10 分
 列車の場合：J R 仙石線 陸前赤井駅から車で約 10 分
 同 石巻あゆみ野駅から車で約 10 分
 J R 石巻線 佳景山駅から車で約 6 分

